

曾於文藝

うたごよみ

俳句

末吉俳句会

右左もみづれる中車駆く

池田 安起徒

青空と落葉ふぶきにある笑顔

古藤 まゆ美

大銀杏ひこばえ育ち黄葉づれる

宮路 生大子

大陽俳句会

アルバムの若き日しのび冬ぬくし

逆瀬川 節子

車窓より又追ひかけて冬の虹

岩重 みどり

玻璃ごしの日に祭^{さんさん}とシクラメン

福村 よう子

短歌

末吉短歌会

体調が散歩コースを選ばする

木犀の咲くあの辺りまで

宝蔵 弘二

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

花そばの中で遊べる猫二匹

見上げてみやう晩秋の空

長倉 佳津子

反芻^{はんすう}の牛が佇む丘のなだり

平穏とふ日の真中を恐る

森岡 ちどり

大陽短歌会

片言の孫の指さす「木」と「実」なり

褒める我みて「ば」とも言う

竹内 娃子

田の畦を巡れば刈られしその株に

ちらほら稲の花咲きおりぬ

安藤 フヂ子

診察の順を待ちつつ本を読む

この小康をしあわせと言う

米澤 正敬

財部短歌会

収穫のその日を胸に一本つつ

手植えするなり玉葱の苗

杉村 リカ

ひざ痛のリハビリ兼ねてウオーキング

金木犀の香りを背なに

児玉 次雄

もみじ狩り「認知症予防」の地蔵在り

紅葉さてをきしかと祈りぬ

井上 澄子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

豊祭^{ほうざい}ち言^ゆが 甘酒^{あまさけ}よつめ

辛れ焼酎^{しょうちゆ}を

胡摩ヶ野 べぶまつ

流鏑馬^{やぶさめ}で 標的^{まるとん}的中^{まんちやけ}

大豊作^{おおあたり}

浜田 一好

甘酒^{あまさけ}で 昔^{むかし}の豊祭^{ほうざい}を

思^{おも}い出^だせつ

古川 一幹

豊祭^{ほうざい}で 住吉神社^{すみよしじんじや}

走^{はし}い駒^{こま}

鈴木 一泉

大陽薩摩狂句会

新^にけ総理^{そうり} 拉致^{らっし}ん解決^{けつげつ}つ

頼^{たの}ん家族^{けぞう}

津留 群志

大晦日^{としのばん} 爺^じが掛け直^{かへ}えた

新^にけ曆^{こよみ}

小倉 りんりん

見^み栄^えを張^はつ 買^こた新^にけ財布^{さいふ}は

中^{なか}は空^{から}

西山 美代子

新^にけ皿^{しやう}は ミケ用^{もちゆ}言^いう婆^ばい

嫉妬^{しよの}ん爺^じ

境 すやすや